

須藤氏

特44

十二

789

東京圖書館

和書門

音
日
本
類

函

四
八
架

五
號

二
八
冊

源氏



八重丸塩路乃縁の空ぐく九重
のりあしん 早稲 作是日尚書

夢乃志やうん藤原の無則とん

秋子也ねし神歌の夜右なまふ

よるく。未と伊勢が太神まゝあつん

い様ふ。お度々おひらきから侍参る事
と志てい^ス。藤^ノ長^トおのひまぬ敷
期^ノ末^トグク^クヤ^クら^ク乃^クお^ク半^クふ
て日^ノ敷^ノの^クとう^クふ^クお^ク舟^ノの^クら^クく^ク
と^クして^クお^クか^クくと^ク彼^ノの^クら^クら^ク我^ノ
と^クお^クみ^クて^ク彼^ノの^クら^クく^クお^クる^クふ

^トあり^クく^クお^クは^クい^ク様^ノお^ク津^ノの^ク由^ク
次^テ乃^クら^クう^クら^クお^ク附^クて^クい^クお^ク食^クら^クせ^ク
及^クら^クる^ク源^ノ氏^ノの^ク大^クお^クさ^クく^ク様^ノひ^ク
在^ク所^ノお^クて^クい^クま^クく^クお^ク及^クら^クる^クお^ク本^ノの^ク
様^ノお^クも^ク一^ク見^クせ^クお^クや^クと^クお^クひ^クい^ク字^ノ
世^ノの^クお^クら^クふ^クら^クう^クら^クお^ク乃^クら^クお^クら^クう^クと^ク

一 ぬ壇末の那 二方に名 相あつてまゝ
 二 壇とまのさやま祭乃かけか
 三 是の壇のうらふと書
 一 物とふしやうぬる壇末とを
 二 此世と渡る者あつくは也明
 三 壇末の山陰より其のたのめ

一 名ふぬる末のうらなる
 二 ぶらから源氏乃津田を
 三 然あつくまけふトキ 舞の甲ま
 一 者なる有し由夜の物終り
 二 舞を能とらふありウぐ
 三 乃舞のあまの思ひ舞と行

一ニコト^尾一ト一ト一ト一ト一ト
 七ツク^ウ彼古墳とと申入老の
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト一
 向の梢とら〜一ト一ト一ト一ト
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト

一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト

山残あまきと。此たふ餘入
 志〜るなま〜る。若た危〜
 何ふな〜一ト一ト一ト一ト
 水ひり〜。あ〜。と〜。と〜
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト
 一ト一ト一ト一ト一ト一ト一ト

中なるに花をあらしむり社を

早ハヤく後へ乃山嶺をふりける

来り花をさしてさくまを

今イマわさし節のほむる

眼メもとやきと後へのうらの

懐ハくまも黒もさく白もさく

早ハヤくとふらふ来り後へ

よりトは花よりさく海へのうら

うらウら後へさまるか後への浦ら

らラら乃山置れ花とらふ花を

多タくはくさくさくさくさく

はあまはら左さく人あら申

三二ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ
三三ハコハハコ

うお冠さるる麻衣乃相人のつげと
 りしちめよりさるる保氏と名と
 ちちの^{ウチノ}常侍乃巻ふ中侍紅葉
 の^{ヤラ}笑のまゝふふと位よ叙せしれ
 花乃^{ヤラ}あのみさ乃おれぬあもさ
 く入月るおほいりちちさるるあ
 花乃^{ヤラ}あのみさ乃おれぬあもさ

ちちの^{ヤラ}笑のまゝふふと位よ叙せしれ
 花乃^{ヤラ}あのみさ乃おれぬあもさ
 ちちの^{ヤラ}常侍乃巻ふ中侍紅葉
 の^{ヤラ}笑のまゝふふと位よ叙せしれ
 花乃^{ヤラ}あのみさ乃おれぬあもさ
 ちちの^{ヤラ}常侍乃巻ふ中侍紅葉
 の^{ヤラ}笑のまゝふふと位よ叙せしれ
 花乃^{ヤラ}あのみさ乃おれぬあもさ

都よる入るん殺乃卯の官を經て
上シテ後らちつヤき日とほヤく一小月
丈夫と女の巻志ふ志丈夫志及古良志籍乃
う志葉志よ志夫志上天皇志かく志たり志
ひと志お志て志き志る志あ志ら志か志し志け志り
上志巻志や志保志氏志の志田志た志ら志づ志く志が志て

いほぐの程中しんあぐとくは
へ志や志ら志く志き志ら志さ志あ志ら志は志ら志あ志も
とら志の志あ志ら志く志た志き志れ志月志乃志杖
とら志の志あ志ら志く志き志ら志さ志あ志ら志は志ら志あ志も
見志世志じ志ら志り志や志あ志ら志か志と志み志ん志き
とら志の志あ志ら志く志き志ら志さ志あ志ら志は志ら志あ志も

源氏の御後家 昔の源氏 今
このころの ^{上白}天よ後始の月よあま
くみよあまのころお海よ新由を
る ^上が秋よ中ノ胸をささあくる
わ源氏乃さの各あまや雲
かくれしとそら世ふらふ子後

いと美ふあり ^{早知} ねの源氏のたね

彼よ人聞とあんし我ふを
かろし ^{せら}後よりいさや今言のまふ
居く探もあねと ^{上考}あまんと
たの浦 ^たあまの月よ後あしとづく
いとあまの ^た後まふと ^た彼ふた

^十 暮業乃^レ安^ニ由^ル。あ^リと。を^レ舞^キく^レ
^後 ^後 面^ノ白^ク海^ノも。我^レは^レ女^ノ也^ナ。
有^ル一^ノ時^ニが。光^ノ原^ノ氏^トら^シ今^ノも。
そ^ノあ^リ入^ル。天^ノ上^ニに^レ居^ルを^レも。
月^ノは^レ縁^ノと^テ園^ノは^レふ^らり。お^もは^レ
六^ノの^ノ浦^ノが。ま^じの^ノ海^ノは^レ枝^ノの^ノ舞^ヲ。

樂^ムみ^びく^レて^レ月^ノの^ノ杖^ノが^ノの^ノま^み。
と^ノある^レは^レ乃^ハた^レら^レる^レ自^レ夜^ノの^ノ杖。

^地 玉^ノの^ノ笛^ノ乃^ハ昔^ノあ^リす^レみ^つら^る。 兼^テ
^十 笙^ヲ琴^ヲ空^ニ履^キ孤^ニ雲^ニれ^ルひ^レき^上天^ノを^レ
^十 う^らや^ノ復^テ平^ノの^ノう^られ^ルれ^ルあ^ら海^ノの^ノ
^十 岐^ノ風^ノも^もく^レら^り。 兼^テ雲^ノの^ノつ^らも^も

^十 其^レ
^十

とふり夢らつてきわのりみみ
よのきついでに世の申ふら
あゝ昔も男もあつて娘もあつた
うーおんがきつて保氏乃きつて
上巻 金前ふ白原のまええり
かば家行も世生をゆえんと
ヤチ

天よりて度らふまゝなる
ら有難のゆゑやあつて
あまの 田方れ歳を吹き
上巻 雲か敷 世のそ
ヤチ 山嶺を
ヤチ

